

研究構想図（4年次）

【社会状況】

様々な問題に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、情報を見極め、知識の概念的な理解を実現することで新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

（新学習指導要領を参考）

【学校教育目標】

知 よく考え 進んで学ぶ子
体 体をきたえ たくましい子
徳 助け合う やさしい子

【児童の実態】

各学力調査の結果などを考察すると、多くの児童については、一定程度満足できる結果になっており、知識が豊富で高い学力を有していると考えられる。しかしながら、複数のことを比較したり、関連付けたりする力、様々な情報を目的に応じて読み取り、まとめ、適切に表現する力、既習の知識をつなげて活用する力が本校児童の課題である。

未知の状況にも対応できる
思考・判断・表現等の育成

生きて働く
知識・技能の習得

育成すべき資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

研究主題

深い学びを実現する授業の創造
～つなぐ、つなげる、つながるを通して～

【目指す深い学びの姿】（4年次）

【低学年目指す

深い学びの姿】

生活経験と新しい知識をつなげて自分の考えをもち、互いの考えを比べ合ったり、認め合ったりして、より良い考えをもつことができる姿。

【中学年目指す

深い学びの姿】

既習事項と新しい知識を結び付けて理解したり、物事や状況を比較させながら、自分の考えをもち、問題意識をもって解決策を考えたりすることができる姿。

【高学年目指す

深い学びの姿】

知識を相互に関連付けて、より深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることができる姿。

【研究仮説】

目指す深い学びの姿を実現するために、教科横断的なカリキュラム・マネジメントを構築し、各教科等で思考スキルを関連付けて見だし、単元・授業構成の工夫を取り入れる。また、思考を促す、思考ツールの活用や、対話の工夫を取り入れ、リフレクションをしていくことで、深い学びを実現することができるであろう。

〈深い学びの姿に迫るための具体的な手立て〉

○単元・授業構成の工夫

・教科等横断的に考える(カリキュラム・マネジメント)

○思考ツールの活用

・比較する・分類する・関連付ける
・理由付ける・順序付ける 等

○対話の工夫

・友達との比較・関連

○リフレクション

・自身の学びを振り返る
・自身の学び方を振り返る